

令和3年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立大石南中学校

目 次

上尾市立大石南中学校学力向上プラン「グランドデザイン」・・・・・・・・・・ 1

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査・・・・・・・・・・ 2
【1～2年生：国語、数学、英語（1年のみ）】

(2) 全国学力・学習状況調査・・・・・・・・・・ 4
【3年生：国語、数学】

(3) 埼玉県学力・学習状況調査・・・・・・・・・・ 5
【1年生：国語、数学】
【2～3年生：国語、数学、英語】

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組・・・・・・・・・・ 7

- ① 国 語 科 学力向上プラン
- ② 社 会 科 学力向上プラン
- ③ 数 学 科 学力向上プラン
- ④ 理 科 学力向上プラン
- ⑤ 外国語科 学力向上プラン
- ⑥ 他教科の授業改善
音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科、特別の教科 道徳

(2) 教育活動全体を通じた取組・・・・・・・・・・ 17

- 本校の特色ある取組
- 家庭教育との連携

上尾市立大石南中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

人生の基礎を培い 夢を語り 向上心と 勇気を育てる
 出会い ふれあい 学びあい

学校課題研究主題

「主体的に学ぶ力を育てる教育課程の工夫」～生徒一人一人の学習目標を意識した指導と評価の一体化～

学力・学習状況調査の結果

R3 全国学力・学習状況調査	R3 埼玉県学力・学習状況調査	R2 上尾市立小・学校学力調査
<p>国語 語句に対する知識・理解が低く、読む能力に課題が見られる。</p> <p>数学 日常生活の事象を数学的に表現する力、グラフや表を用いて思考・判断する力に課題が見られる。</p> <p>質問紙 授業や学級での課題に対し、自ら進んで解決する力や家庭学習の定着に課題がある。</p>	<p>国語 平均正答率は埼玉県・上尾市と比較して低い状況にあるが、学力の伸び率は埼玉県の平均を上回っていた。</p> <p>数学 学力の伸び率は県平均比較をする、若干低かったが、学力を伸ばした生徒の割合は県平均より多い。</p> <p>英語 レベルの平均が2段階上げることができ、少しずつ英語に対するの苦手意識が減少してきている。</p>	<p>国語 全ての領域において、全国正答率よりも低く、特に「読むこと」の領域の正答率が低い。中でも、筆者の考えや登場人物の心情を読みとる問題の正答率が全国正答率の比べて著しく下回っている。</p> <p>数学 基礎技能の定着は見られるが、特殊な条件下の問題や視点を変えた課題設定の問題に課題がある。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な力の定着	根拠に基づいて自分の考えを構成し、伝え合う力の育成	多様性を尊重し、相手の話等を的確に聞き取る力の育成

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習や習熟度別学習で個に応じた指導の推進。 ・指導と評価の一体化を意識した取組。 ・月1回の補習質問日の実施。 ・Chromebookを活用した個に応じた課題の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の過程が明確になるようなワークシートの工夫。 ・各教科におけるルーブリックの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのススメ」の配信と定着。 ・基礎的・汎用的能力のチェックチャートの活用によるキャリア教育の土台作り。

本校の特色ある取組

- ・教員間の自由な授業訪問。
- ・経験年数5年未満の教員を対象とした授業研究の実施。
- ・単元の内容等に応じた少人数学習の実施。
- ・教科ルームを活用した学習環境の充実。

家庭教育との連携

- ・各教科の学習内容の動画配信の実施。
- ・健康的な身体づくりの一環として、フッ化物洗口の実施によるむし歯対策。
- ・自主学習の取組強化。

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和3年1月実施)

第1学年(令和3年度第2学年)【国語】

項目	項目	
考察	<p>総じて平均よりやや下回る状況にある。領域別では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化で」については、概ね平均前後にあったが、「読むこと」に関しては平均を大きく下回り、課題が残った。設問内容に関しても、心情の読み取りや、文章の内容理解についてなど、読解力を問う内容で全国平均と比較し、著しく下回るものがあった。「選択問題」「記述式問題」などの解答形式別の正答率に関しては大きな差は見られなかった。</p>	
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情の読み取りなど、各表現から掘り下げた思考に繋がる学習課題の設定が必要と考える。 漢字や文法学習などは現行の継続的且つ計画的な指導を継続する。 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語力の基礎となる漢字をはじめ文法など言語力を定着させる指導に重点を置いてきた。今後は心情理解等発展的な内容にも時間をあて、バランスよく指導計画を練りたい。

第1学年(令和3年度第2学年)【数学】

項目	項目	
考察	<p>標準得点平均が全国より0.7ポイント上回っており、基礎的な知識は身につけている。数学的な見方は優れているが、「どうしてその式を使うのか」や、「なぜそうなるのか」を考えられていない。また、数学に関する関心が低く、特に関数の単元に課題が見られる。</p>	
課題	<p>(課題)</p> <p>演習問題がただ解けるだけではなく、「どうしてそうなるのか」考えさせることが課題である。</p>	<p>(要因分析)</p> <p>問題解決において、思考が止まってしまっている事が多いので、数学的な見方・考え方を深める課題に触れる機会を増やす。</p>

第1学年(令和3年度第2学年)【英語】

項目	項目	
考察	<p>標準得点平均が全国より1.9ポイント上回っており、基本的知識・能力が身につけているようである。特に「書くこと」では、平均正答率が全国比115である。また、「聞くこと」「話すこと」においても全国比が104であり、今後の伸びが期待できる。一方で、「読むこと」が全国比99とやや下回っている。教科書だけでなく、より多くの英文に触れる機会を設ける必要がある。観点別集計では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が全国比114であり、英語に対する興味・関心が高いことがわかる。4観点全てで全国比100を上回っているため、今後、より工夫を凝らした授業を展開し、力をつけていきたい。標準偏差が8.9であるため、協働作業や言語活動を充実させることで結果が出せるのではないかと考えられる。</p>	
課題	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読む力」が低い。(長文理解・読解力) 	<p>(要因分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書以外の英文(物語や論文)に触れる機会を設ける。

第2学年(令和3年度第3学年)【国語】

項目	項目	
考察	全ての領域において、全国正答率よりも下回っており、読むことの領域の正答率が低い。なかでも、筆者の考えや登場人物の心情を読みとる問題の正答率が全国正答率と比べて著しく下回っている。	
課題	(課題) ・理解や表現に必要な語句の量を増やす。 ・暗示的な表現の捉え方の定着。 ・論理的な思考方法の定着。 ・文章の構成の意識化と定着	(要因分析) 描写の細部に着目し、行動や心情などの変化を丁寧に捉えることができていなかった。 語句の辞書的な意味と、文脈上の意味の違いを捉えることができなかった。

第2学年(令和3年度第3学年)【数学】

項目	項目	
考察	全体的に正答率が安定している(標準平均51.2)。特に証明の問題に関しては、平均正答率が全国比139である。また、基礎技能については、解き方がある程度決まっている問題の正答率が高い傾向にあるが、特殊な条件下の問題や、視点を変えた課題設定の問題は苦手である。よって、一つの事象に対し、多角的に理解することが不足していると考えられる。	
課題	(課題) ・多角的に問題を捉える力 ・基礎的な知識・技能を活用する力	(要因分析) ・日常生活において数学と関連させて考える経験が少ない

(2)全国学力・学習状況調査(令和3年5月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

読むことの正答率が、全国平均と比べて10ポイント以上低く、中でも、文脈の中における語句の意味を答える問題の正答率が極めて低くなっている。このことから、語句に対する知識・理解が低いことが読む能力が低い要因となっていると考えられる。

各学年における重点指導事項

3年	毎授業、始めの10分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語彙を広げ、語句を文の中で使えるようにする。また、単元のまとめ学習として、文章の読み取りにそって、社会への関心や、自己の生き方について自分の考えを表現させる課題を計画的、意図的に設定する。入試に向け、演習問題に取り組みせ、読解力の向上を図る。
2年	基礎的な言語能力向上のため、毎授業始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。また、少人数(18名程度)による授業を行うことで、個に応じて文章を正確に読み取り、適切に答える練習をきめ細やかにを行う。また、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を計画的、意図的に設定する。
1年	基礎基本の定着として、毎授業、始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。また、漢字プリントを活用し、言語能力の向上を図る。思考力、表現力の育成を目指し、理由や根拠に着目した読解・表現の定着を図る課題を意図的、計画的に設定する。

数学

考察(問題と結果の分析)

全体的に全国・県平均と比べて正答率が低いが、質問紙の結果から、数学の学習に対し肯定的に捉えたり、粘り強く考えられている生徒が多いことがわかる。数学に関する事象や図形の性質についての深い理解を問う問題については正答率が高い傾向があった。しかし、日常生活の事象を数学的に表現することや、グラフや表を用いて日常生活の場面の問題について思考・判断する力に特に課題がみられる。

各学年における重点指導事項

3年	学習内容を活用する力を育てることに重点をおき、より多くの問題や場面を経験させる。また、1つの問題や場面に対し、様々な視点で解決を図ることによって、生徒の思考力を育む。
2年	数学の事象や性質に対して、多面的に捉え、複数の解法や見方などについて積極的に触れる。また、学習した内容を、日常生活の場面と結びつけて捉えたり、活用する機会を増やす。
1年	基礎技能の定着に重点をおき、1年間を通して継続的に計算の復習を行うなど、丁寧な指導と演習時間の確保を図る。また、単元の導入で積極的に日常生活の場面を活用する。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和3年5月実施)

国語

学年	項目
1年 (令和3年度2年)	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率 56.0 は埼玉県(61.3)上尾市(62.0)と比較し、低い状況にある。 ・「教科の領域」「評価の観点」「問題形式」の各区分においても全て埼玉県、上尾市の平均を下回っている。 ・設問別の正答率に関しては「漢字の読み書き」等いくつかの項目を除き埼玉県、上尾市の平均を下回っている。 ・学力の伸び率に関しては、埼玉県の平均を 0.2 ポイント上回っていた。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後5月の実施であり、成果として何らかの評価をするのは難しい。今後の取組については、全ての学習内容での基礎基本を身に付けさせる指導が必要である。漢字の読み書き等については小学校からの成果が見て取れる結果であったので、今後も言語力の向上に継続的な指導を行いつつ、各単元の学習も基礎基本的な課題を設定し、国語力の向上を目指したい。
2年 (令和3年度3年)	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率 59.7 は埼玉県(63.1)上尾市(63.7)と比較し低い状況にある。 ・「教科の領域」「評価の観点」「問題形式」の各区分や設問別の正答率に関しても埼玉県、上尾市の平均を下回っている内容が多かった。 ・学力の伸び率に関しては、埼玉県の平均と同等の伸びを示していた。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の言語的な内容や書き抜きなどの設問における正答率に成果が見られる。基礎的、基本的な国語力に繋がる課題設定などを工夫した結果と思われる。書写に関する内容の正答率が高く、当該内容について昨年度重点的に指導した結果と捉えている。今後は発展的な学習課題も実態に合わせて設定し、記述力をはじめ総合的な国語力の向上を図ってきたい。
3年 (令和3年度卒業)	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率62.2は、埼玉県(68.1)上尾市(67.9)と比較し、低い状況にある。 ・「教科の領域」「評価の観点」「問題形式」の各区分においても全て埼玉県、上尾市の平均を下回っている。 ・学力の伸び率に関しては、埼玉県の平均と同等の伸びを示していた。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や文法など、毎授業取り組んできた内容に関しては、一定の成果が見られた。しかし、文章の内容を読み取り、まとめて書くことについては、引き続き課題である。また、自分の意見を記述する問題の無解答率も高く、考えをまとめて書く力を身に付けさせるための指導が必要である。書けない・書かない生徒への個別指導も併せて行っていきたい。

数学

学年	項目
1年 (令和3年度2年)	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率が 54.4(県平均 59.4)と、これからの伸びが期待できる状態である。 ・領域別でみると、データの活用が他の領域と比べて高かった。 ・分数に関する問題の正答率が低い傾向がみられる。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時に、小学校の学習内容と関連付けながら学習を進める ・特に分数を含む計算や方程式の学習は丁寧に扱い、基本的な計算方法から確認して行う。
2年 (令和3年度3年)	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸び率が低い。 ・基礎的な知識の定着はあるものの、それ以上に知識の深い理解が足りないため伸び率が上がっていない。 ・知識をただ活用することはできているので基礎的な見方、技能は身につけている。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用するのではなく、なぜそれを活用するのかを考える問題を取り扱う。
3年 (令和3年度卒業)	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)・学力の伸び率 1.8(県平均 1.9)と、若干低かったものの、学力を伸ばした生徒の割合が 71.9(県平均 69.8)と多かった。・下位層から中位層の伸びは高い傾向にあったが、上位層の伸びに課題がみられた。・四分位数の正答率が極端に低かった。文字式の計算やさいころの確率などの正答率は県平均より高かった。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に1年間の総復習を行うことで、多くの生徒に対し、基礎技能の定着を図ることができた。一方、知識を活用することの経験や、総復習で取り扱わなかった技能についての課題がみられた。 ・知識を活用して解く問題を多く取り扱う。また、日頃の授業において1・2年生の復習を行う。

英語

学年	項目
2年 (令和3年度3年)	考察(現状分析・実態) ・平均正答率 62.8(埼玉県平均 62.6)であり、標準的な学力が身についている。 ・「聞くこと」の平均正答率が 63.5 であり、県平均 64.6 と比べると、1.1 ポイント低い。 ・「書くこと」の平均正答率が 52.5 であり、県平均 53.2 と比べると 0.7 ポイント低い。
	これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・毎時間のペア活動やインタビュー活動により、英語力が身についているようである。今後は、アウトプット活動を重視し、自分の考えや気持ちを英語で書かせたりする活動を取り入れていきたい。 ・オールイングリッシュを心がけ、多くの英語を聞かせることにより、聞く力を伸ばしていく必要がある。
3年 (令和3年度卒業)	考察(生徒の伸びの傾向・実態) ・レベルの平均が2段階上げることができた。少しずつ英語に対しての苦手意識が減少してきている。 ・すべての領域で県や市の平均を下回っているが、とりわけ「書くこと」の分野が際立っている。 ・理解が進んでいる生徒と、苦手意識を持つ生徒の差が広がっている。
	これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて) ・毎時間のペアワークやインタビュー活動を通じて、英語を使ってコミュニケーションをとりながら、英語に対する苦手意識を改善されてきている。 ・英語の問題に慣れ、英文を書くための練習を行っていく。

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

① 国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

活用語彙を増やし、正確に理解し、的確に表現する力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none">・毎授業、始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。・漢字プリントを活用し、言語能力の向上を図る。・理由や根拠に着目した読解・表現の定着を図る。・ワークを活用し、長文読解と文法事項の定着を図る。	
2年	<ul style="list-style-type: none">・毎授業、始めの5分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語句を文の中で使えるようにする。・ワークを活用し、正確に読み取り、適切に答える練習を行う。・根拠を明確にして自分の考えを書く活動を行う。・少人数による授業を行い、充実した指導・支援を行う。	
3年	<ul style="list-style-type: none">・毎授業、始めの10分を漢字や語句の学習の時間として設定し、語彙を広げ、語句を文の中で使えるようにする。・単元のまとめ学習として、社会への関心を高め、生き方について自分の考えを表現させる。・演習問題に取り組みせ、読解力の向上を図る。	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

② 社会科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- 基礎的・基本的な知識の定着と、資料等から適切に読み取り、表現する力
- 持続可能な社会を生き抜くため、自分の考えをもち、適切に表現する力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。 ・毎時間小テストを行う。 ・大型モニタ、写真やグラフなど、図から読み取り、考え、文章化する。 ・確認カードを活用し、単元毎の課題を追求し、学習を積み重ねていく。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。 ・単元ごとや章ごとに小テストを行う。 ・小グループ等による話し合い活動を通して、意見を共有し、学習内容を再度振り返り、定着させる。 ・これまでの学習とのつながりを意識し、事象に対する予想や考えを主体的にもち、自分の考えを文章で表現させる。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、課題を設定し、まとめ、振り返りを行う。 ・1・2年次の学習内容に関する小テストを継続して行う。 ・少人数学習を活かし、より一人一人が主体的に発言し、他者との意見を共有し、課題に対して協働して考えさせる。 ・模擬裁判や模擬投票等の活動を通して、社会の形成者であることの自覚を促す。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

③ 数学科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

基礎的・基本的な知識・技能を習得し、既習事項を活用しようとする力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> 理解や集中に時間がかかる生徒に対し、TTを活用して支援する。 前時の学習内容を振り返ってから本時の内容に入る。 単元ごとに課題点を明確にした上で復習する。 授業内容を精選し、演習時間を確保する。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を振り返ってから本時の内容に入る。 自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする場面を設定する。 結果の予想や既習事項の活用を行う場面を設定する。 年度末に1年間の学習内容の総復習を行う。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 前時の内容を振り返ることで、それを活用しながら新しい知識を理解できるようにする。 自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする場面を設定する。 発展的な内容や探究的な学習を積極的に取り入れる。 習熟度別に指導を行い、個に応じた支援を行う。 	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

④ 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

重点的に伸ばす学力

- 事物・現象に関する基礎的な知識や技能を習得し、表現する力
- 基礎的な知識・技能を活用し、応用的に思考する力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。 ・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的知識を定着させる。 ・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組みさせる。 ・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。 ・ 単元ごとに小テストを行い、既習内容の振り返りを行う。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。 ・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的知識を定着させる。 ・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組みさせる。 ・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。 ・ 実験後、考察の時間を確保することで、思考力の向上を図る。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験において、毎時間レポートを提出させ評価する。 ・ ワークや宿題を毎時間確認し、基礎的知識を定着させる。 ・ 定期試験前に、補充学習を行う。練習問題に取り組みさせる。 ・ 授業開始時に、前時の授業の確認を行う。 ・ 難易度別の演習を行い、個に応じて課題解決能力の向上を図る。 	

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

⑤ 外国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

英語を用いて自分の考えを相手に話したり、書いたりして表現する力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図る。 ・ 独自の音読シートを使用し、音読練習や、本文の暗唱を行う。 ・ ALTとJTEによるリーディングテストを実施する。 ・ 学期に1度のスピーチ発表を行う。 ・ 言語の使用場面を意識し、言語活動を行う。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図り、それを活用して、自分の気持ちや考えを表現する。 ・ 基本文を用いたQ&Aの反復練習を行う。 ・ 音読シートを活用し、音読練習や本文の暗唱をして、本文の内容を別の表現で言い換えたり、説明したりする。 ・ 場面設定を変えて、音読練習を行う。 ・ ペアやグループで、充実した言語活動を行う。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、「クイックインプット」を使用し、基本文の定着を図り、それを応用して、自分の気持ちや考えなどをまとめた英文で表現する。 ・ 音読シートを用いて、教科書本文の暗唱をし、さらに、本文の内容を自分の言葉で説明する。 ・ 与えられたテーマに関して、まとまりのある英文で表現する。 ・ より実践的な会話表現を用いた言語活動を行う。 ・ スピーチ発表会、ALTとの会話テストを実施する。 	

- A・・・取組の効果が十分に見られた
 B・・・今後も課題として取り組む
 C・・・取組を見直す

⑥ 他教科の授業改善

○音楽科

1年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な音楽に対して興味・関心をもてる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢、授業準備、チャイム着席などの授業規律を確立する。 ・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。 ・デジタル教科書等ICTを活用する。 ・合唱祭に取り組む。 ・箏を習得する。 ・日本の伝統的な音楽に興味を持たせる。
2年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な音楽や楽器に対して興味・関心をもてる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢、授業準備、チャイム着席などの授業規律を確立する。 ・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。 ・デジタル教科書等ICTを活用する。 ・合唱祭に取り組む。 ・ギターを習得する。 ・日本の舞台芸術に興味を持たせる。
3年	<p>《身に付させる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を通して音楽に親しみ興味・関心をもてる力 ・自分の思いを音楽や言葉で表現できる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即した題材、興味のもてる題材を設定する。 ・デジタル教科書等ICTを活用する。 ・合唱祭に取り組む。 ・創作の発表を行う。 ・日本・世界の舞台芸術に興味を持たせる。

○美術科

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を造形的な見方・考え方をもつための創造的技能の習得 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を共通事項や造形的な見方・考え方に求められるように指導事項の整理、 掲示の充実などを行う。 ・ I C T機器の効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の充実により広げ、深めた造形的な見方・考え方を自らの制作に生かす 構想発想の能力の習得 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を共通事項や造形的な見方・考え方に求められるように指導事項の整理、 既習事項の掲示の充実などを行う。 ・ I C T機器の効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思考過程を伝え合い、感じ取ったことを基に、作者の心情や表現の意図と工夫を 考える鑑賞の能力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由な討論が可能になるように生徒の実態を捉えて話合いの論点や役割分担 などを工夫する。 ・ I C T機器の効果的活用も含め年間指導計画、特に取り組む題材の精選を進める。

○保健体育科

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の課題を見つけ、課題を解決するために取り組む姿勢を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを活用して、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行 う。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の課題を見つけ、課題を解決するために取り組む姿勢を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを活用して、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行 う。

3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の課題と他者の課題を見つけ、課題を解決するため、互いに声を掛け取り組む姿勢を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを活用し、自分自身の課題を確認させ、授業の前に振り返りを行う。また、ホワイトボードを使い、他者の課題を指摘し合えるようにする。
--------	--

○技術・家庭科（技術分野）

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工の技術に関わる基本的な知識 ・生物育成の技術に関わる基本的な知識 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとに要点をまとめたワークシートを準備し、活用する。 ・実験（構造）や実習（踏み台製作・トマト栽培）などの体験的な学習を充実させる。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術に関わる基本的な知識 ・情報の技術に関わる基本的な知識 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとに要点をまとめたワークシートを作成し、記入させることで内容の理解を図る。 ・実験（リンク機構・カム機構）や実習（ラジオ製作・プログラミング）などの体験的な学習を充実させる。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の技術に関わる基本的な知識 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとに要点をまとめたワークシートを作成し、記入させることで内容の理解を図る。 ・実習（プログラミング）などの体験的な学習を充実させる。

○技術・家庭科（家庭分野）

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選択と手入れに関する知識・技能 ・住居の機能と住まい方に関する知識・技能 ・生活を豊かにしようと工夫する力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活を振り返り、生活と結びつけて考える活動を行う。 ・布を用いた物を製作する。（はし箱袋、エコバッグ） ・衣生活、住生活に関する課題を長期休みに行い、記録して提出させる。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活に必要な基礎的知識・技能 ・食生活を主体的に営む態度 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起させる身近な題材を設定する。 ・自分自身の生活を振り返り、結びつけて考える活動を行う。 ・調理実習を行う。 ・食生活に関する課題を長期休みに行い、記録して提出させる。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児に関する基礎的な知識と関わり方 ・消費生活や環境に配慮した生活に関する知識・技能 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の様子や幼児との関わり方を、映像視聴を通して学ばせる。 ・学習意欲を喚起させる身近な題材を設定する。 ・自分自身の生活を振り返り、結びつけて考える活動を行う。

○特別の教科 道徳

1年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ ローテーション道徳を実施する。(多くの教員が授業に参加することで、様々な価値観を生徒は感じることができ、教師も授業に工夫を凝らすようになる)・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。(大石南中学校の「命の日」にちなみ、講師を招く。また、学級でも工夫を凝らした授業を実践する)・ 話合いの仕方を学ぶ。
2年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ ローテーション道徳を実施する。・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。・ 話合いの活性化を図る。
3年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 友達の意見を聞き、広い視野から多面的・多角的に考える力・ 道徳教材に触れて、自分の生き方を見つめる力 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・ ローテーション道徳を実施する。・ ゲストティーチャーを招いた授業を行う。・ 話合いを通して自身の生き方を考える。

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
・磨心(まごころ)清掃の実施	非認知能力の育成を目指し、生徒が自ら清掃に集中して取り組むことができるような清掃活動を実施している。責任感を醸成するため清掃長を各分担場所に設け、生徒会本部と連携し主体的な取組を実施している。
・教科ルームの充実	国語・数学・英語・社会において、教科ルームを設置し、それぞれの教科に特化した教室づくりを行っている。授業環境を充実させることで集中力を高め、学習活動の活性化を図っている。
・少人数指導等の実施	数学・理科・社会・国語において、TTや単元に応じた少人数指導・習熟度別指導等を実施し、基礎的・基本的な学力の育成と共に応用力の育成にも取組み始めている。
・実力テストの実施	1・2年生において、年に2回の実力テストを実施し、個人の伸びに着目すると共に、分析結果を基にして授業改善に取り組んでいる。
・学力推進委員会の設置	学力推進委員会を設置し、学力向上に向けて共通理解・情報共有を図っている。
家庭教育との連携	
・フッ化物洗口の実施	健康管理の面からも学習を支えていただくため、むし歯の治癒率を高める働きかけとともに、むし歯の予防についても学校から発信し、意識を高める取組を行っている。
・自学ノートの活用	家庭学習の取組を定着させるために、学校全体として共通の自主学習ノートを配布し、毎日提出させ担任が目を通して見ている。より効果的な取組をしているノートを示し、参考ポイントを紹介している。
・「学びのススメ」の活用	保護者会資料として活用することで学習の取組の共有化を図っている。